

## 学力調査の分析結果について（2017～2019年度）

## 目 的

本学では、新入生の学力調査（国語、数学、英語）を活用し、英語の習熟度別クラスの編成、学習センターの設置、センター担当教員の採用等の計画を実行してきた。この度、カリキュラム改善のための基礎資料を得ることを目的に、直近の2017～2019年度までの3年間の英語と数学の調査データを横断的に分析し、入学時における英語力や数理的能力の推移、英語力の変化（英語教育の効果）を明らかにする。

## 対象データ

新入生の学力調査（国語、数学、英語）については、2017年度470名、2018年度488名、2019年度494名のデータを分析した。2年次学力調査（英語のみ）は、入学時と2年次修了時の両方で受検した2018年度335名と2019年度383名のデータを分析した。

## 結果と考察

## (1)英語の学力調査について

入学時の英語力の推移 次の表は、2017年度から2019年度までの入学時の英語力テストの結果である。入学時に英検2級相当（高卒程度）に達していない割合は、全体で、2017年度が76.17%、2018年度が76.64%、2019年度が75.51%であった。学群・学科別にみると、国際学群は英検2級相当に達していない割合は67.00%～69.61%であるのに対して、スポーツ健康学科は87.38%～90.29%、看護学科は80.95%～89.02%となっており、人間健康学部において入学時の英語力に課題のある学生が多く、その比率が年度ごとに異なることが分かった。

表 入学時の英語力（英検レベル）2017～2019年度の推移

	年度	人数	入学時の英検レベル				
			4級	3級	準2級	2級	2級以上
国際	2017	283	0.35%	11.31%	57.95%	29.33%	1.06%
	2018	303	0.33%	10.23%	59.08%	29.70%	0.66%
	2019	300		11.33%	55.67%	32.00%	1.00%
スポーツ健康	2017	103		25.24%	65.05%	9.71%	
	2018	103		29.13%	58.25%	12.62%	
	2019	107		22.43%	67.29%	10.28%	
看護	2017	84	1.19%	10.71%	69.05%	17.86%	1.19%
	2018	82		21.95%	67.07%	10.98%	
	2019	87		8.05%	79.31%	12.64%	

入学時と2年次修了時の英語力の変化 次の表は、入学時（2017年4月）と2年次修了時（2019年1

月)の英語力の変化を示している。入学時よりも英語力が上昇した学生の割合は11.05%、下降した学生の割合は17.01%であり、-5.96ポイントであり、海外派遣留学等で受検できなかった学生が除外されているとしても、全体的に英語力を向上させることができていなかった。

表 英語力の変化 (2017年度入学生, N=335)

		2年次修了時				総計
		3級相当	準2級相当	2級相当	2級相当以上	
入学時	2級相当以上				0.30%	0.30%
	2級相当		7.46%	14.33%	0.30%	22.09%
	準2級相当	9.55%	45.07%	6.87%		61.49%
	3級相当	12.24%	3.58%			15.82%
	4級相当	0.30%				0.30%
総計		22.09%	56.12%	21.19%	0.60%	100.00%

注) 青色が向上、緑色が変化なし、黄色が下降を意味する。

次の表は、入学時(2018年4月)と2年次修了時(2020年1月)の英語力の変化を示している。入学時よりも英語力が上昇した学生の割合は17.22%、下降した学生の割合は9.14%であった。全体的に英語力が向上したといえるが、その差は、8.08ポイントと小さかった。

表 英語力の変化 (2018年度入学生, N=383)

		2年次修了時				総計
		3級相当	準2級相当	2級相当	2級相当以上	
入学時	2級相当以上				0.52%	0.52%
	2級相当		3.13%	15.14%	0.52%	18.80%
	準2級相当	6.01%	46.74%	10.97%		63.71%
	3級相当	11.49%	5.22%			16.71%
	4級相当		0.26%			0.26%
総計		17.49%	55.35%	26.11%	1.04%	100.00%

注) 青色が向上、緑色が変化なし、黄色が下降を意味する。

次の図は、学科別に学生個人の英語の得点変化を示した箱ひげ図である。2017年度入学生(左図)では、いずれの学科も得点が向上していないことが分かる。2018年度入学生(右図)では、国際学群では英語力が上昇する学生の割合が多かったが、スポーツ健康学科や看護学科では上昇する学生と下降する学生の割合はほぼ変わらなかった。

以上の結果は、①英語に関する授業数(国際学群は人間健康学部よりも英語を学ぶ授業数が多いこと)、②言語学習センターの活用度(国際学群の学生ほど学習センターを利用する割合が高いこと)、③他の授

業での英語力の必要度（国際学群の学生ほど英語の授業以外でも英語を用いた教材や課題に取り組む必要が多いこと）、④学生の学習ニーズの違い（国際学群の学生ほど、学習内容に国際性を志向していること）が影響していると考えられる。

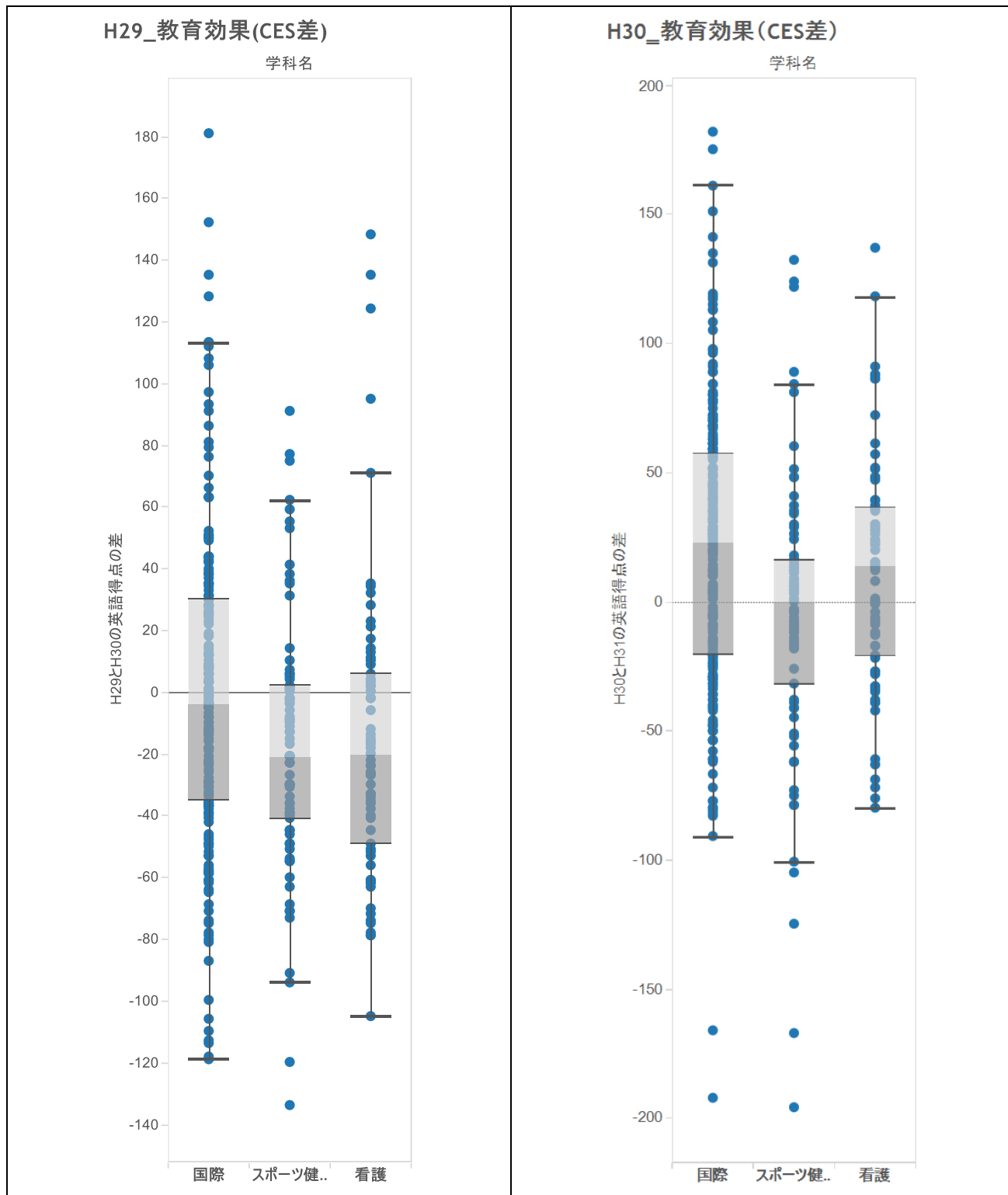


図 学群・学科別での入学時と2年次修了時の英語力の変化（左2017年度入学、右2018年度入学）

## (2)数学の学力調査について

数学は、入学時には学力調査を実施しているが2年次では行っていない。分析の結果、2017年度、2018年度、2019年度で比較すると、平均点は30.1点、32.3点、34.1点と改善傾向が認められたが、大学の授業についていけないと診断される学生(D-、D+)が41.2%、36.8%、32.5%いることが明らかとなった。また学科別に比較すると、国際学群とスポーツ健康学科でその傾向が顕著であった。

表 数学の学力調査の結果(2017～2019年度)

	年度	D-	D+	C-	C+	B	A
国際	2017	26.86%	19.43%	18.37%	15.55%	12.37%	7.42%
	2018	26.47%	16.99%	17.32%	14.71%	17.32%	7.19%
	2019	16.67%	19.33%	23.67%	12.33%	18.33%	9.67%
スポーツ健康	2017	18.81%	22.77%	13.86%	17.82%	15.84%	10.89%
	2018	18.81%	11.88%	22.77%	13.86%	15.84%	16.83%
	2019	18.10%	19.05%	17.14%	17.14%	16.19%	12.38%
看護	2017	9.52%	15.48%	11.90%	19.05%	25.00%	19.05%
	2018	12.20%	7.32%	13.41%	13.41%	28.05%	25.61%
	2019	2.30%	12.64%	12.64%	12.64%	29.89%	29.89%

## (2)国語の学力調査について

国語も数学と同様、入学時には学力調査を実施しているが2年次では行っていない。分析の結果、2017年度、2018年度、2019年度で比較すると、大学の授業についていけないと診断される学生(D-、D+)が15.39%、11.25%、10.97%いることが明らかとなった。新入生の国語の学力向上の傾向は認められるが、学習や研究の最も基本となる国語力について10人に1人が課題を抱えている現状が明らかになった。

表 国語の学力調査の結果（2017～2019年度）

	年度	D -	D +	C -	C +	B	A
国際	2017	3.53%	13.07%	21.91%	21.20%	32.51%	7.77%
	2018	3.92%	7.19%	22.55%	23.20%	32.35%	10.78%
	2019	2.00%	9.33%	22.00%	19.67%	32.67%	14.33%
スポーツ健康	2017	3.96%	12.87%	22.77%	19.80%	30.69%	9.90%
	2018	3.96%	10.89%	21.78%	15.84%	27.72%	19.80%
	2019	2.86%	10.48%	19.05%	30.48%	29.52%	7.62%
看護	2017	2.38%	7.14%	17.86%	25.00%	34.52%	13.10%
	2018	1.22%	6.10%	26.83%	15.85%	42.68%	7.32%
	2019	1.15%	5.75%	24.14%	17.24%	35.63%	16.09%

#### 今後の課題と改善策

英語では、入学から2年後の英語力（教育効果）を把握できてはいるが、個別学習支援やカリキュラムの検討にはつながっていない。英語力に課題のある学生個人を対象としたリメディアル教育や個別学習支援の実施が課題である。

数学では、多くの課題を抱えている学生が入学してきている現状を把握しており、学力調査から課題のある学生を抽出し、授業科目（教養教育科目「自然科学特別講義（統計学基礎）」）を新設し、数理学習センターと連携した個別学習支援を行う等、リメディアル教育の充実が図られている。今後、受講していない該当者の指導と履修後の継続学習支援が課題となる。

なお国語の学力調査の結果活用はほとんどできていなかったため、2020年度は、国語に加えて、ライティング力についての学力調査を実施した。その調査結果を活用することにより、課題のある学生を抽出し、「アカデミックライティング I」とライティングセンターが連携し、個別学習支援を推進することが可能となるであろう。